

平成30年度実施施策に係る政策評価書

(文30-11-1)

施策名	スポーツを「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と、そのための人材育成・場の充実		部局名	スポーツ庁 健康スポーツ課	政策評価 実施予定時期	令和元年8月
施策の概要	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進とその環境整備を行う。					
施策に関係する内閣の 重要施策(主なもの)	「経済財政運営と改革の基本方針2019」 「未来投資戦略2019」					
施策の予算額・執行額 (政策評価調査に記載する額) 予算の状況【千円】 上段：単独施策に係る予算 下段：複数施策に係る予算	区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度要求額	
	当初予算	1,739,096 ほか復興庁一括計上分 0	1,801,204 ほか復興庁一括計上分 0	1,840,695 ほか復興庁一括計上分 0	2,607,339 ほか復興庁一括計上分 0	
		<69,367,935> ほか復興庁一括計上分 <10,690,735>	<68,561,444> ほか復興庁一括計上分 <8,950,158>	<161,385,799> ほか復興庁一括計上分<9,017,352>	<232,792,533> ほか復興庁一括計上分<11,384,581>	
	補正予算	0 ほか復興庁一括計上分 0	0 ほか復興庁一括計上分 0			
		<72,067,537> ほか復興庁一括計上分<0>	<157,234,043> ほか復興庁一括計上分 <0>			
	繰越し等		0 ほか復興庁一括計上分 0			
		<△63,016,487> ほか復興庁一括計上分 <4,358,724>				
合 計		1,801,204 ほか復興庁一括計上分 0				
		<162,779,000> ほか復興庁一括計上分 <13,308,882>				
執行額【千円】		1,568,141 ほか復興庁一括計上分 0				
		<141,401,179> ほか復興庁一括計上分 <11,002,734>				

達成目標1	若年期から高齢期までライフステージに応じたスポーツ活動の推進、学校体育をはじめとして子供のスポーツ機会の充実による運動習慣の確立と体力の向上及びビジネスパーソン、女性、障害者のスポーツ実施率の向上と、これまでスポーツに関わってこなかった人への働きかけを通じて、スポーツ参画人口の拡大を図る。						目標設定の考え方・根拠	第2期「スポーツ基本計画」（平成29年3月文部科学大臣決定）第3章1（1）「スポーツ参画人口の拡大」を踏まえ設定。	
測定指標	実績値						目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H28年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R3年度		
①成人のスポーツ実施率（週1回以上）	42.5%	—	40.4%	42.5%	51.5%	55.1%	65%	A	<p>【目標値の設定根拠】</p> 第2期スポーツ基本計画において、「成人のスポーツ実施率を週1回以上が65%程度となることを目指す」とされていることから、本目標値を設定した。 <p>【指標の根拠】</p> スポーツ基本計画（平成29年3月24日）において、政策目標が「成人のスポーツ実施率を週1回以上が65%程度（障害者は40%程度）、週3回以上が30%程度（障害者は20%程度）となることを目指す」とされているため、本目標値を設定した（同計画P7参照）。 <p>【出典】</p> スポーツ基本計画（平成29年3月24日）
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
測定指標	実績値						目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H28年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R3年度		
②成人のスポーツ実施率（週3回以上）	19.7%	—	19.6%	19.7%	26.0%	27.8%	30%	A	<p>【目標値の設定根拠】</p> 第2期スポーツ基本計画において、「成人のスポーツ実施率を週3回以上が30%程度となることを目指す」とされていることから、本目標値を設定した。 <p>【指標の根拠】</p> スポーツ基本計画（平成29年3月24日）において、政策目標が「成人のスポーツ実施率を週1回以上が65%程度（障害者は40%程度）、週3回以上が30%程度（障害者は20%程度）となることを目指す」とされているため、本目標値を設定した。（同計画P7参照）。 <p>【出典】</p> スポーツ基本計画（平成29年3月24日）
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
測定指標	実績値						目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H28年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R3年度		
③自主的にスポーツをする時間を持ちたいと思う中学生の割合	58.7%	58.8%	60.0%	58.7%	64.6%	65.1%	80%	A	<p>【目標値の設定根拠】</p> 第2期スポーツ基本計画において「自主的にスポーツをする時間を持ちたいと思う中学生を80%(58.7%→80%)にすることを旨とする」とされていることから、本目標値を設定した。 <p>【指標の根拠】</p> 分母：全国体力・運動能力、運動習慣等調査に回答した生徒数（中学校2年生） 分子：「自主的にスポーツをする時間を持ちたいと思う」と回答した生徒数 <p>【出典】</p> 第2期スポーツ基本計画（平成29年3月24日策定） 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			

測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H28年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R3年度		
④スポーツが「嫌い」・「やや嫌い」である中学生の割合	16.4%	14.9%	15.5%	16.4%	16.3%	16.2%	8%	C	<p>【目標値の設定根拠】</p> 第2期スポーツ基本計画において、「スポーツが「嫌い」・「やや嫌い」である中学生を半減（16.4%→8%）することを目指す」とされていることから、本目標値を設定した。 <p>【指標の根拠】</p> 分母：全国体力・運動能力、運動習慣等調査に回答した生徒数（中学校2年生） 分子：「スポーツが嫌い・やや嫌い」と回答した生徒数 <p>【出典】</p> 第2期スポーツ基本計画（平成29年3月24日策定） 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H27年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R3年度		
⑤昭和60年度と比較可能な新体力テスト項目の平均値を昭和60年度の平均値・標準偏差を用いて偏差値化した値の平均値	【9歳男子】 43.4	43.8	43.4	43.6	43.9	調査中	50.0	B	<p>【目標値の設定根拠】</p> 第2期スポーツ基本計画において、「子供の体力水準を昭和60年頃の水準まで引き上げることを目指す」とされていることから、本目標値を設定した。 <p>※平成30年度数値は令和元年10月に公表予定</p> <p>【指標の根拠】</p> 新体力テストの項目のうち昭和60年度も実施していた項目（9歳：50m走・立ち幅とび・ソフトボール投げ、13歳・16歳：握力・持久走・50m走・ハンドボール投げ）を昭和60年度の平均値・標準偏差を用いて偏差値化した値の平均 <p>※新体力テスト導入（平成10年度）前後では合計点の単純比較ができないため、この指標を用いた</p> <p>【出典】</p> 平成29年度 体力・運動能力調査報告書（平成30年10月）
	【9歳女子】 45.2	45.4	45.2	45.9	46.0	調査中	50.0		
	【13歳男子】 48.2	49.8	48.2	49.4	48.9	調査中	50.0		
	【13歳女子】 44.8	46.3	44.8	46.3	46.1	調査中	50.0		
	【16歳男子】 48.2	48.8	48.2	49.1	48.6	調査中	50.0		
	【16歳女子】 46.9	47.5	46.9	47.0	47.4	調査中	50.0		
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H28年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R3年度		
⑥成人のスポーツ未実施者（1年間に一度もスポーツをしない者）の割合	32.5%	—	22.6%	32.5%	24.7%	18.4%	0%に近付ける	A	<p>【目標値の設定根拠】</p> 第2期スポーツ基本計画において、「成人のスポーツ未実施者（1年間に一度もスポーツをしない者）の数がゼロに近づくことを目指す」とされていることから、本目標値を設定した。 <p>【指標の根拠】</p> スポーツ基本計画（平成29年3月24日）の施策目標として「成人のスポーツ未実施者（1年間に一度もスポーツをしない者）の数がゼロに近づくことを目指す」とされているため本目標値を設定した。（同基本計画P10参照）。 <p>【出典】</p> スポーツ基本計画（平成29年3月24日）
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			

達成目標2	スポーツに関わる多様な人材の育成と活躍の場の確保、総合型地域スポーツクラブの質的充実、スポーツ施設やオープンスペース等のスポーツに親しむ場の確保及び大学スポーツの振興を通じて、スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実を図る。						目標設定の考え方・根拠	第2期「スポーツ基本計画」（平成29年3月文部科学大臣決定）第3章1（2）「スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実」を踏まえ設定。	
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H27年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R3年度		
①モデル・コア・カリキュラムの導入団体数（大学含む）	2	—	—	2	2	3	60	A	【目標値の設定根拠】 第2期スポーツ基本計画において、「指導者養成の基準カリキュラムとして国が策定したグッドコーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラムを大学やスポーツ団体へ普及することとしているため、本目標値を設定した。 【出典】 スポーツ基本計画（平成29年3月24日）
	年度ごとの目標値	—	—	2	2	3			
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H27年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R3年度		
②総合型クラブの登録・認証制度等の制度の整備状況（都道府県）	0	—	0	0	0	0	47	C	【目標値の設定根拠】 第2期スポーツ基本計画において、「総合型クラブの登録・認証等の制度を整備する（現状0→目標47都道府県）」とされている（P14）ことから、本目標値を設定した。 【出典】 スポーツ基本計画（平成29年3月24日）
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H28年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R3年度		
③中間支援組織の整備状況（都道府県）	0	—	0	0	0	0	47	C	【目標値の設定根拠】 第2期スポーツ基本計画において、「都道府県レベルで中間支援組織を整備（現状0→目標47都道府県）」とされている（P14）ことから、本目標値を設定した。 【出典】 スポーツ基本計画（平成29年3月24日）
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H28年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R3年度		
④大学スポーツアドミニストレーターを配する大学数	—	—	—	—	17	26	100	A	【目標値の設定根拠】 各大学におけるスポーツ分野の取組を戦略的に推進するためには、スポーツ分野を一体的に統括する部局を設置するだけでなく、当該部局の実効的な運営を担う人材である大学スポーツアドミニストレーターの配置を促進する必要があるため。 【出典】 スポーツ基本計画（平成29年3月24日）
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H28年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R2年度		
⑤社会体育施設に関する個別施設計画（個別施設毎の長寿命化計画）の策定率	0	—	—	10%	14%	調査中	100%	A	【目標値の設定根拠】 施設の老朽化や人口減少等に対応し安全なスポーツ施設を持続的に確保するには、「文部科学省インフラ長寿命化計画」や「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」に基づき、地方公共団体による個別施設計画策定を促進する必要があるため。 【指標の根拠】 分母：計画策定対象管理者数 分子：計画策定完了管理者数 【出典】 平成30年度文部科学省調べ
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			

	<p>目標達成度合いの測定結果</p>	<p>相当程度進展あり</p>	<p>判定方法手順に則り、個別指標の判定は、B・Cを含むが、全11指標のうち、A・Bが合わせて8個あり、全体で見ると、8/11を占める。また、C判定の指標についても、令和3年度までに実施を予定している事業・取組の開始や、現在の事業の継続による質的向上が見込め、数値の改善の余地がある。</p>
<p>評価結果</p>	<p>施策の分析</p>	<p>【必要性】 ○第2期スポーツ基本計画に示される通り、国民がスポーツを楽しむ、喜びを得ることで、それぞれの人生を生き生きとしたものとするといったスポーツの価値は、国民や団体等の活動を通じて実現されるものであり、施策目標毎の個々の測定指標に係る事業は、国民や団体等の活動を支援し、評価するものである。よって、スポーツの価値を享受できるように国民や団体等を支援し、その評価が可能な当該諸事業の必要性は高い。 ○第2期スポーツ基本計画には、【政策目標】として、「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進とその環境整備を行う。その結果として、成人のスポーツ実施率を週1回以上が65%程度（障害者は40%程度）、週3回以上が30%程度（障害者は20%程度）となることを目指す」と記載されており、①スポーツ参画人口の拡大と②スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実がその手段として明確に規定されている。</p> <p>【効率性】 ○達成目標1については、対象とする国民の層をライフステージに合わせて分類し、達成目標2については、ハード・ソフトの両面で整備が必要な場面に分類し、対象に対して個別具体的に施策を打っている。 ○また、事業を行う際の連携先を地方自治体、学校、民間企業とそれぞれに合わせて設定しており、施策目的を達成するために真に必要な範囲のみで連携を図っている。</p> <p>【有効性】本施策は、一部の測定指標を除き、目標に見合った実績を着実に挙げている。スポーツ参画人口の拡大という、政策に直結する場面においては、事業の現行の実施実績が今後も継続されることで、令和3年度に成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%程度とする目標を達成しうる。 一方、C判定をつけた指標については、「次期目標等への反映の方向性」に記した通り、事業内容や制度整備の充実を図ることで、目標の達成を見込んでいる。 また、令和3年度の目標値を達成することのみに囚われず、スポーツの習慣化を図る事業や指導者の育成、施設の整備など、本施策の理念の達成が、長期にわたり継続的に実現するべく仕掛けを施している点は、評価できる。</p>	
	<p>次期目標等への反映の方向性</p>	<p>達成目標1に係る測定指標はおおむねB判定以上である。国民のライフスタイルに合わせてスポーツ参画を促せるように各対象の課題に応じた事業展開がなされていることが、達成目標1の着実な進捗に貢献していると考えられる。唯一、C判定の指標についても、今後目標達成に向けて重要な要素である「嫌になるきっかけの傾向」が把握できていることは評価できる。 以上より、達成目標1に対する今後の方向性として、一定以上の効果が認められる事業を継続しつつ、課題の残る測定指標については上記に記載している施策のさらなる充実を図ることで、引き続き、セグメント別かつライフステージに合わせて施策を展開していくことにより、スポーツ参画人口の拡大を図る。</p> <p>達成目標2に係る測定指標の判定は、二極化しているが、C判定の測定指標の分析を見ると、現在準備を進めている段階であり、今後制度構築を行う段階であるため、令和3年度の目標達成に向けて、着実な制度の実施を進めていく。スポーツ環境の基盤の充実に向けて、数値の推移だけでは測りきれない部分もあるが、測定指標に係る事業により、質的充実を図りつつ、定量的な結果を出していることは評価できる。 以上より、達成目標2に対する今後の方向性として、スポーツ環境の基盤づくりに係る制度設計を定量的な成果だけでなく、質を担保しつつ、継続、発展させていくことにより、スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実を図る。</p>	
<p>学識経験を有する者の意見</p>	<p>達成目標1 測定指標④について、部活は嫌だが自分が好きなスポーツであれば好きな人もいて、試合に勝つ部活もあれば親しむ部活もあるのではないかと。そうした施策の広がりも踏まえ、子供たちがスポーツに親しむ・実施する、ということに繋がるのではないかと。また、今の指標はコントロールすることが極めて困難な指標と言える。教育政策以外の要因が強く関連する可能性が高く、今後も継続して用いるべき指標か否かを検討すべき。</p>		